日時・場所 ： 2009年11月12日（木） リーガロイヤルホテル広島 3F 音戸の間
講　　師 ： 棚 多 里 美 氏（広島県 健康福祉局こども家庭課長）
演　　題 ： 広島県方式“みんなで子育て応援”
紹 介 者 ： 吉 村 幸 子 会員

本日の講師棚多里美さんには、一昨年11月に「児童虐待防止」をテーマに講演していただいたことがあります。11月は児童虐待防止推進月間ですが、虐待をいかに防ぐか、これはキワニスにとっても大きな課題です。子育て中の親の孤立、相談場所がない、これらは虐待に大きく関わっています。本日のテーマの子育て応援は虐待防止につながっています。広島県は子育て応援に企業と一緒に取り組んでおり、とても良い活動だと思っております。5 月の例会では広島市の少子化・子どもの問題への取り組みをご講演いただきましたが、今回は広島県の取り組みをお話しいただこうと思います。

広島県こども家庭課長の棚多です。吉村様にはずっと鍛えられてきましたが、まだまだ鍛えようが足らないと思っておられることでしょう。

児童虐待防止について

広島県は、オレンジリボンキャンペーン（児童虐待防止運動）に全国に先駆けて平成19年から取り組んできました。カープ・サンフレッチェ・広響にご協力いただき、選手・団員にオレンジリボンを試合や公演で着用してもらい認知度を高めてきました。今年はもっと広く、みなさんにオレンジリボンを着けていただいて「そのリボンは何？」と関心を持ってもらおうと『広島県児童虐待防止10万人オレンジリボン・キャンペーン』を展開したところ、企業のみなさまから多くの参加申し込みをいただき、15万人の人にオレンジリボンを着用してもらうことになりました。ありがとうございます。

それでは児童虐待防止について簡単に説明いたします。児童虐待が社会問題化してきて平成12年に『児童虐待の防止等に関する法律（通称：児童虐待防止法）』が制定されました。その年は広島県全体の相談件数が404件でした。平成17年に市町の保健所だけでなく市町の方でも相談を受けることになり、件数が伸びました。そして平成19年には約2000件、これは平成18年に県内で虐待により子どもが死亡した事件があり件数が増えたものと思われます。平成20年は約1700件、少し減少しました。

虐待の要因としては下記のようなことが考えられます。

① 子育ての責任が母親一人に負わされる
② 親自身の問題
③ 経済的問題
④ 子育ての相談相手が居ない

虐待の実態を見てみますと、全国で年間約6000人の子どもが亡くなっています。その半分が乳児で、9割が就学前の子どもです。それはなぜか、乳児や就学前の子どもは、社会との接触を持たない、子ども自身が訴える力を持っていない、虐待は家の中で行われるので分かりにくい、ということが言えると思います。

虐待防止には3つのポイントがあります。

① 虐待は子育てのＳＯＳ、そのＳＯＳをしっかりキャッチしたい
② 子育てはできて当たりまえと思われ勝ち。昔は実家や祖父母など様々な人が関わってやってこれた。今は核家族で関わる人がいない。
③ 若い親達はネットなどで情報を得て何でもかんでも完璧にやろうとする。周りに「そんなに思いつめな

くてもいい」とアドバイスする人もない。

そうした外からは見えにくい虐待問題にみんなで気をつけながら、社会全体で子育てを応援して虐待防止を図ろうという取り組みが、広島県方式なのです。

広島県方式―みんなで子育て応援

ア　少子化といわれる時代

広島県の合計特殊出生率（一人の女性が一生涯に産む子どもの数の平均）

S40～50 年代　　２以上

↓減

H16　　1.33

↓　　H18 に県として子育て応援が始まる

H19　　1.43

平成 19 年度は前年度比較伸び率で全国一位になり、取り組みを継続していくことが必要だと感じました。が、人口を維持するには合計特殊出生率が 2.07 と言われており、まだまだ道は遠いです。

イ　子育て応援政策

今年は選挙がありましたが、選挙などで“子育て応援”は公約としてよく取り上げられます。しかし実施する段になると、優先順位が低いという悩ましい問題があります。

ウ　広島県の 30 年後の姿

子ども（0～14 才）が人口比に占める割合（広島県）

S50　　23.9%　　４人に１人が子ども

H17　　14.1%　　７人に１人が子ども

↓

H47　　9.6%　　10 人に１人が子ども（予想数値）

総人口が減るのはともかく、このままでは人口構成の世代バランスが非常に悪くなります。想定のままなら、平成 47 年には 3 人に 1 人が 65 歳以上、10 人に 1 人しか子どもがいないということになる、町を歩けば年寄りばかりで子どもがいないという事態になります。

エ　未婚化・晩婚化・非婚化

	平均初婚年齢（全国）	生涯未婚率（全国）		生涯子どもを持たない率
		男性	女性	
S50	24.7 歳	2%	4%	
H17	28 歳	16%	7%	17.7%
	↓	↓		↓
H47	?	23.6%（予想数値）		38%（予想数値）

平均初婚年齢が上がっており、一生涯独身の人の数も増えているのがわかります。結婚しても晩婚の為、子どもを産むとは限りません。母親の第 1 子出産平均年齢も上がっています。今までは、未婚化・晩婚化と言われていましたが、今は生涯結婚しない、非婚化になっています。結婚したくない訳でも子どもが欲しくない訳でもないが、適当な人がいないとか育てるのが大変だから、と若い世代は言います。

オ　広島県方式“みんなで子育て応援”による、子育てしやすい環境づくり

産む産まないの是々非々ではなく、今子育て中の若い世代の親達が楽しそうに子育てをしている様子を見れば、次の世代も「子どもを持ちたい、家庭を持ちたい」と思ってもらえるのではないでしょうか。そういう子育てしやすい環境づくりをして「みんなで応援しているよ」というメッセージを、子育て中の人に確実

に届くように発信したい、『子育てするならわがまちで！』と誇れる広島県づくりを目指したいと思っております。そしてそれを、行政だけでなく企業のみなさまと一緒にやる。行政指導でなんか遠くの方でやってるよというのではなく、企業さんが日常生活の中でちょっとした子育てに優しいサービスを実施し、その情報を行政が子育て中の親に発信する、そうした企業と行政が一緒になった取り組みが、広島県方式です。県は黒子、コーディネート役だと思っております。行政が関与して何がいいか？　広報力があることです。行政の広報力＋企業の力、そしてこども夢財団のような民間団体もみんな一緒になって、毛利元就の三矢の訓ではないですが、3 本の矢で一緒になって子育て応援に取り組む、これは他の県の事例にはない、まさに誇れる広島県方式です。

広島県方式“子育て応援”取り組みの具体例

ア　子育て応援イクちゃんサービス

平成 19 年 2 月に『こども未来づくり・ひろしま応援隊』（広島県内の 6 経済団体・広島県・こども夢財団でつくる）の第一弾事業としてスタートしたこの取り組みは、店舗・施設にミルク用のお湯を置く、キッズルームを作る、割引するといった子育て応援サービス実施を企業が登録し、県はその情報を子育て中の家庭に発信するというシステムです。子育て中の親はこうした情報を知り外に出かけやすくなるし、企業にとっては公共のホームページで企業情報やイベント情報を紹介されるというＰＲ効果とイメージアップというメリットがあります。

参加事例

①	広島銀行	金利優遇
②	広島信用金庫	店舗に授乳スペース・キッズコーナー設置、絵本の配備
③	広島電鉄	運賃割引
④	フレスタ	ポイント加算
⑤	サロンシネマ	映画観賞料割引
⑥	病院（複数）	保護者が治療中の託児サービス
⑦	ホテル（複数）	イベント時（フラワーフェスティバル）のイクちゃんベビールームの設置
⑧	広島県ＬＰガス協会	『パパ・ママ応援おうちの看護』の啓発普及用マグネット作成・配布の協賛
⑨	本通り商店街	駐車場でのベビーカーレンタル　空き店舗でカルチャー教室＆託児サービス
⑩	中国新聞	『こどもと一緒におでかけマップ』製作・配布

企業さんのサービスの種類はできるところから始めていただいております。上記①～⑥は割引や店舗・施設に授乳スペースを設置、託児サービスなどです。

⑦は常設のベビールームではなくフラワーフェスティバルのときに、市内 5 つのホテルに設置していただきました。授乳したりオムツを替えたりする場所があると、子育て中の親が安心して出かけられます。また、ボランティアの方がベビールームに常駐してお手伝いをしてくれます。今年のフラワーフェスティバルでは、1017 名の方にこのイクちゃんベビールームをご利用いただきました。場所が分かりやすいように、本日も持ってまいりましたイメージキャラクターのイクちゃんの着ぐるみや幟を貸し出します。このイクちゃん、私に似ていると言われるのですが、まん丸なところが…、似てますでしょうか？？？

⑧は広島県ＬＰガス協会さんに医療情報サイト『パパ・ママ応援おうちの看護』の啓発普及用のマグネッ

トシール作成・配布に協賛いただいております。

⑨、⑩は、本通り商店街と子育て中の親達でつくるＮＰＯ『こどもと一緒におでかけ隊』が、一緒に商店街を歩いて子育てに優しい店やサービスのポイントをチェックして、商店街側がその意見を参考にして新たなサービスを始める、ＮＰＯがおでかけマップをつくる、そして中国新聞さんがマップを製作・配布をしました。初め商店街側は消極的でしたが、親子に気軽に来てもらうことが商店街の活性化につながるという風に変わってきました。親の方も、こんなによくしてくださる、我々もマナーを守ってゴミも持ち帰ろうという風に変わってきました。

イ　つくってみようよ！　自分の朝ごはん

これも『こども未来づくり・ひろしま応援隊』の事業です。夏休みに5日以上こどもが自分で朝ごはんを作って写真を撮って、自分と保護者の感想を添えて応募するものです。サタケ、タカキベーカリーといった企業さんが協賛してくださって審査にも参加し、10月のフードフェスティバルにて表彰しています。今年は512 人の応募がありました。この表彰式のときに、『早ね　早おき　朝ごはん』（文部省と民間で進める子供に正しい基本的生活習慣をつけさせる運動）の歌と振り付けがあるのですが、これを表彰式の後に歌って踊りました。佐々木新健康福祉局長も着任早々ですが、ご自宅でしっかりＤＶＤを見てマスターされて、先月25日、ステージで一緒に踊りました。局を挙げて、局長自ら率先してやっております。

ウ　キッズ情報送信サービス

これは、ひろしまこども夢財団の事業です。携帯電話で子育て応援情報や緊急情報を発信するものです。平成 14 年に始まりましたが、当時から「若い世代のコミュニケーションツールはケータイだ」と、全国に先駆けて携帯サイトをスタートさせました。会員登録は無料で小学生までの子どもを持つ親が対象です。現在会員は2万1千856人です。ピンポイントで必要な情報が必要な人に届く仕組みです。特に不審者情報は、今、即時に必要な情報ですから、リアルタイムで警察から情報を貰うシステムをつくっています。

エ　パパ・ママ応援おうちの看護

これは先ほどＬＰガス協会さんに啓発普及用マグネットシール作成配布に協賛いただいたことをご紹介しましたが、こども夢財団が県小児科医会の監修の下に作成した、こどもの急病などに適切に対応できるよう対処法等を紹介する携帯電話サイトです。内容について子育て中の親達の意見も参考にしています。広島県は県医師会と連携が密で、これも他の県にはない、珍しいことです。

終わりに

企業と行政が一緒になってやることが重要です。どこの企業さんも、ＣＳＲとか社会貢献をしたいという気持ち・考えを持っています。逆に喜んで子育て応援をしてもらっていると思います。子育て応援をすることによって、世の中を良くしたいとみなさん思っている、ＰＲ効果とかイメージアップとかもありますが、社会を良くしたいという共通した思いの下にやっているので、次につながっていく。そう思います。

『子育てするなら　広島県！』『子育てするなら　わがまちで！』と誇れるこんな街にしたいというのが、企業のみなさまも私たちも同じ一つの思いでしょう。子育て応援というのは、わがまちづくりでもあり、住みやすいまちづくりでもあります。30年後、10人に1人しか子どもがいない、子どもにめったに出会えないような、そんなまちにしてはいけない。やはり、あちこちに子どもの声が溢れていて、子育てするならわがまちで、と思えるようなそんな広島県に、みんなが誇れる広島県づくりに、ぜひともお力を貸していただきたいと思いますし、ご一緒に取り組みを進めてまいりたいと思います。

最後になりましたけれど、イクちゃんサービスの申込書も配布させていただきました。よろしければぜひご一緒にご参加いただければと思っております。本日はどうもありがとうございました。